

充分。それに特にへつるような所もない。出合の上部は、流木や倒木が目立ち、はや源頭部かと思わせるが、やがてナメと5m程の滝が出てきて二俣となる。

まず、右へルートをとる。30分程平凡なゴーロが続いた後、たてつづけにナメが現われ、大きな滝こそかからないものの、まあまあ感じである。滝も特にむずかしいものはなく、ほとんどがシャワーしながら直登できる。

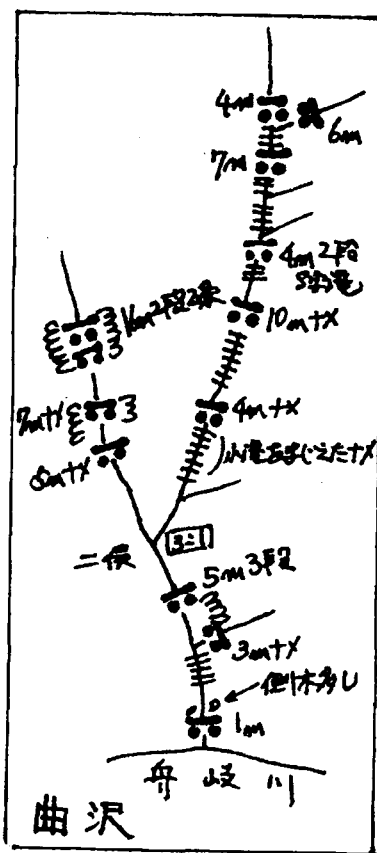
9:45ここまで左へ左へとルートをとってきたが、ここに来て本流と思われる左沢は水がほとんどなくなってしまう。ちょっと偵察ということで、水量の多い右沢に入ってみるが、6m程の滝を越すと先は倒木がひどく、遡行に難儀をきたし、そこそこにして戻り、左沢に入る。

5分も行くと完全に水は涸れ、予定の地点よりかなり手前であったが、下降予定の左俣に入るべく山腹のトラバースを開始する。ところが、右俣に流れ込む支流に入り込んでしまい、そのまま右俣を下降、二俣へと戻る。

二俣から13:00までという時間制限で、左俣の偵察に出る。12:07、左俣最大の滝、16m 2段2条の滝に到着。真中を直登できるのだが、下降は懸垂になるし、支点をとるのに時間がかかりそうなので、いろいろとルートファインディングを話しあうだけにして下降。

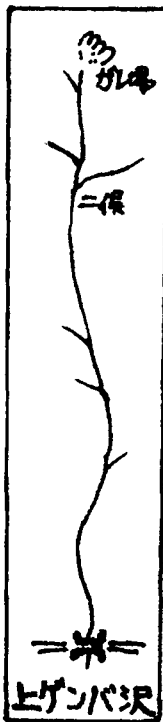
林道までのヤブこぎだが、下降したルートと別のルートをとってみたものの、これがまたひどく、さんざんであった。
(記)

[タイム] 出合(7:25)→二俣(7:55)→遡行終了(10:00)→二俣(11:35)→左俣最高到達点(12:05, 12:30)→出合(14:00)



上ゲンバ沢(仮称) 1985年8月4日
I.

幕営地からかつての林道を15分程歩いて、上ゲンバ沢(仮称)出合へ。かつての林道といっても、もう使われなくなって久しく、トヤス沢出合より上流部分しばらくの間は完全に流失してしまっている。その先は、歩くには支障がないものの、雑草



が茂りはじめています。いつも思うことだが、維持管理のできないような林道建設は、単に自然破壊を招くだけのこと。独立採算制という現行制度のもとでは、森林を伐採し続けねばならない営林署の立場には同情するし、森林の伐採には林道の建設が重宝であることはわかるが、建設の是非まで踏みこんで論議してほしいものである。

6:45遊行開始。出だしから沢幅は狭く、水の流れもあまり多くない。おまけに所々にはブッシュがかぶってきている。初めからイヤな感じがしたのであるが、案の定最後まで滝のかからない平凡な沢であった。遊行終了8:25。

何もない沢であったが、途中でカモシカに会った。斜面をゆっくり登ってゆくところであったが、我々に気づいて立ちどまり、しばらく我々の方を見詰めていたあと、猛スピードで逃げ去った。沢にはこの他にもカモシカの足跡が多数ついていた。(記

【タイム】 出合(6:45)→終了(8:25)

焼 沢 1985年6月4日
L

小沢倉沢をつめ上げて尾根に出、やぶの中で一休みしてから焼沢の下降にかかる。ネマガリダケのピッシリ生えたひどいヤブだ。約1時間の苦闘の末、地図上の凹地にたどり着いた。ガレ場を下ってしばらく進むと、さらに大きなガレ場が出現し、伏流となっていた水が姿を見せてきた。

この沢は崩壊が激しい。どこまで下っても、土砂くずれのあのような河原が続いている。

10:40本流との出合到着。水量比は5:1くらい。この先は行けども行けども広い河原で、唯一4mの滝も軽くクライミングダウンでパス。11:10砂防ダムの工事現場に着いて、下降終了とする。(記)

【タイム】 尾根(9:00)→ガレ場(9:50)→二俣(10:40)→砂防ダム・下降終了(11:10)

